

一般質問通告書

令和7年11月25日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 12番 磯部 亜希

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は 1. 全項目一括質問一括答弁
 2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 2) 発言事項	地域おこし協力隊のこれから取り組みについて
要旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	高島市で以前行われていた地域おこし協力隊が、再び検討されるということになりました。そこで真志会の視察において、総務省の方に地域おこし協力隊についてお聞きしました。これから市ではどのように行われていくかについて以下の点で問います。

1. 地域おこし協力隊の制度は多くの自治体で取り組まれています。その活用の方法は様々です。例えば職員の方の業務の一環を手伝ってもらう傾向のもの、地域に入り込んで課題対応していくもの等があります。本市では、どのような活用を考えておられますか。

2. 募集に関して、ミッションを特定する方法と、特定しないフリーミッションの方法と、全国的な割合は半々だとお聞きしています。募集要項や人数、今後のスケジュールについては現時点でどのようにお考えでしょうか。

3．地域おこし協力隊アドバイザー派遣事業に、新規の募集案件組成パッケージ型支援があります。募集案件の組成、要項の作成、受入れ体制の整備までの一貫した伴走支援であり、合計35時間以内でアドバイザーの派遣が行われるものです。本市の取組みも新規としての取扱いになり、対象となります。今年度はまだ申請を受けられることです。これから募集要項等作成される上で利用されると良いかと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

4．地域の課題として特に市民からお聞きするものに、買い物支援となる移動販売の実施や農業、特に米作りの担い手不足解消があります。地域で課題とされていることについてどのような認識をもっていますか。現在マキノ地域で行われている移動販売については、山間部など、移動手段が難しい高齢者の方々が主に利用されています。人口が少ない地域が多く、収益性は高いとは言えません。しかし必要とされている方がおられるのは事実であり、マキノ以外の地域での実施を切望されている方々がおられます。このような取り組みに地域おこし協力隊の活用は的を射ているのではないかと考えます。検討について問います。